SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

まえがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-01-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長沼, さやか, 山本, 達也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027013

まえがき

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コースでは、毎年 5 月下旬から 6 月上旬にかけた時期に、4 泊 5 日の日程で静岡県内の調査地に泊まり込み、その土地の暮らしについて学ぶフィールドワーク実習を実施しています。参加するのは本コースに在籍する学部 3 年生です。調査地は教員が選定しますが、その後は学生が文献や統計、地図などの資料を収集し、現地を下見するなど事前準備を進め、自らの関心にそってテーマを設定して本調査にのぞみます。

今年度の調査地は静岡市清水区興津でした。実習期間は 5 月 26 日（日）から 30 日（木）までで、教員 2 名と学生 6 名（岩崎香音・小粥洋・小田望央・四ノ宮巧・平田千遥・吉田有里）の 8 名が、興津中町の旅館・興津温泉に宿泊しながら、現地調査を実施しました。

興津は古くから、旧東海道と甲州街道が交差する宿場町として発展してきました。駿河湾と緑豊かな山々を望める景勝地としても知られ、明治期には別荘地としても栄えました。しかし、昭和に入ると、東海道新幹線、東名高速道路、国道 1 号線清新バイパスの建設、興津埠頭の整備を経て、町の景観は大きく様変わりし、産業にも影響が生じました。また、行政単位においては、昭和の大合併で庵原郡興津町から清水市興津に、さらに平成の大合併で静岡市清水区興津になりました。このようにして興津は、街道の宿場町から都市郊外の住宅地へとその姿を変えてきました。そして現在では、静岡市や清水区の一部でありつつも、独自の歴史やコミュニティのあり方を見つめなおし、次世代にもつないでゆこうとする活動が、住民の方々主体でおこなわれています。そうした活動に関わる方々にお話を伺うなかで、学生たちは「地域」のつながりはどのようにして生まれるのか、という問いについて深く考えてきました。この報告書は、その問いに対する学生たちなりの答えです。

調査にあたっては、多くの方々からご支援を賜りました。興津地区連合自治会会長の高山茂宏さんには、本調査実習の目的をご理解いただき、地域の皆さまに私たちをご紹介いただくなど、多大なご協力をいただきました。私たちと高山会長を繋いでくださったのは、昨年度までの調査でお世話になった由比地区連合自治会会長の桑原信夫さんでした。また、宿泊先の興津温泉の皆さまには、寝食以外に勉強部屋をご用意いただくなどわがままを聞いていただきました。ほかにも紙幅の関係上、お名前を申し上げられなかった皆様をふくめて、この場で厚くお礼を申し上げます。

なお、本報告書の刊行にあたっては、静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費の助成を受けました。本報告書の内容は、下記の URL からもご覧いただけます。

http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/bunjin/

令和元年 12 月

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース

長沼　さやか

山本　達也